

立川市単独処理区の下水処理を流域下水道へ編入するための工事説明会 質疑応答要旨

標記の説明会における質疑応答において、皆さまからいただいたご質問やご意見について、市の考え方を次のとおりまとめました。今後の工事を進める上で参考とさせていただきます。貴重なご意見等ありがとうございました。

1) 立川市会場（たましん RISURU ホール）

平成 31（2019）年 1 月 20 日（日）午後 2 時 00 分から午後 3 時 00 分まで

参加人数：11 人

通し番号	質問内容	回答要旨
1	道路の下に送水管を通すのでしょうか。	道路の下に築造します。一部、国立市にある公園の下を通過する箇所があります。
2	道路の勾配に沿って送水管にも勾配をつけるのでしょうか。	道路の勾配とは関係なく、送水管は 1.2%という一定の勾配です。
3	工事の期間中、根川緑道の一部を占用して仮囲いをするようですが、囲いの中は見えるのでしょうか。	遊歩道と芝生の境に仮囲いを建て、下水処理場の境界までの芝生部を占用します。部分的にクリアパネル等を使用し、中が見えるよう囲う予定です（※1）。
4	工事中、根川緑道の遊歩道の通行は可能でしょうか。	遊歩道の通行は工事中でも可能です。
5	工事で発生する土はどこへ運び出すのでしょうか。	シールド工事の泥土は産業廃棄物として処分します。送水施設の掘削で発生する土については、建設資源広域利用センター（青梅市）へ搬出します。
6	平成 27(2015)年 1 月に実施した事業説明会のときから、工期は変わりましたか。	事業説明会のときは平成 34（2022）年度に完了すると説明しましたが、その後、下水処理場で土壌調査を実施した結果、一区画で土壌対策工事が必要となったため、完了時期を平成 35（2023）年度へと変更しています。

7	下水処理場で保管していた、東日本大震災のときに発生した高放射線量の焼却灰はどうなっていますか。	既に搬出済みで、下水処理場内にはありません。
8	現在、根川には下水処理場の処理水を流していますが、処理水がなくなった後の根川のせせらぎはどうなりますか。	処理水にかわる根川の水源をどう確保するかについて、根川緑道を管理している部署とも連携しながら検討している段階です。
9	下水処理場の跡地利用はどうなりますか。	流域編入後も既存の雨天時対応施設は残りますが、老朽化が進んでいるため、更新する予定です。時期や設置場所については今後決定します。跡地の利用方法については現時点で何も決まっておりません。

※1 クリアパネルの配置等については、平成 31 年 3 月 31 日現在検討中です。

2) 国立市会場（国立市南区公会堂）

平成 31（2019）年 1 月 22 日（火）午後 7 時 00 分から午後 7 時 50 分まで

参加人数：3 人

通し番号	質問内容	回答要旨
1	立川市が実施する工事の国立市側のメリットとして、何があるのでしょうか。	北多摩二号水再生センターの運営費等は立川市、国立市、国分寺市の三市の面積割合で負担しています。今回の編入により立川市の処理面積が増えることで国立市、国分寺市の負担割合が減るため、負担額の減少につながるというメリットがあります。
2	立川市数万人分の下水を処理できるだけの容量が、北多摩二号水再生センターにあるのでしょうか。	事業を実施するにあたり、北多摩二号水再生センターの管理者である東京都と協議し事業を進めています。立川市の計画処理人口を受け入れてもらえる協議をしております。
3	送水管は民家の下も通るのでしょうか。	道路と公園の下に通します。民家の下は通りません。
4	施工時に騒音や振動は発生するのでしょうか。	シールドマシン（掘進機）が夜間に通過するとき、カッターを回す音が聞こえることが考えられるので、シールドマシンが接近する前に、戸別にお知らせをさせていただきます。
5	夜間に工事の騒音や振動が気になるとき、作業を止めてもらうことは可能でしょうか。	シールドマシンは途中で止めないほうが順調に掘進できますが、騒音や振動の問題が発生した場合は、対応策を検討します。
6	工事中に掘り穴が崩れることはないのでしょうか。	シールドマシンは先端部で内外の圧力を保ちながら掘進します。工事中に崩落する危険性はありません。
7	ママ下橋付近の地質はどうなっているのでしょうか。	外径が 2m の送水管は、ママ下湧水公園の水面から約 11～13m 下の砂層を通過します。その上には硬い盤の礫層があり、さらにその上には堆積したローム層があります。

8	工事で発生する土はどこから運び出すのでしょうか。	発進立坑や送水施設建設箇所等を掘削したときに発生する土と、シールド工事で発生した泥土については、立川市錦町下水処理場から搬出します。北多摩二号水再生センター内に造る到達立坑と、到達立坑とポンプ棟を接続するために行う推進工事で発生する土は、北多摩二号水再生センターから搬出します。
9	国立市内の浸水対策として、今回の工事で築造する送水管へ一時的に雨水を流すことは可能でしょうか。	今回の工事で築造するのは立川市単独処理区の下水を送水するための管ですので、国立市内の雨水を受け入れることはできません。 (国立市回答) 国立市では大雨の際、集水ますに溜まったごみが雨水の流れを妨げることのないよう、引き続きパトロールを行ってまいります。